

## 第9回連携訓練 高梁川乙島堤防工事での合同訓練・ICT施工勉強会

岡山県倉敷市の高梁川乙島堤防工事現場において、第9回の合同訓練を実施しました。連携BCの訓練として、合同災害対策本部の立上げ訓練、炊き出し訓練を行いました。訓練には、笠岡工業高校の生徒の皆さんも参加し、消火訓練や避難所のパーティション組立てを体験しました。



平成29年2月1日

## 第9回連携訓練 高梁川乙島堤防工事での合同訓練・ICT施工勉強会

高梁川乙島堤防工事では、ICT土工を採用しています。笠岡工業高校の皆さんと一緒に、ICT技術の学習会を実施しました。

恒例の「なでしこパトロール」では、「きれいなトイレ」の評価がありました。女性用トイレの設置は、急速に広がりクオリティも高いものになってきています。



◆ 次回は、5月頃に和歌山県の丸山組（株）の現場での実施を予定しています。

平成29年2月1日

## 「くらしでミーティング」と「なでしこBC」意見交換会 議事録

日時：平成29年2月1日（水）15：45～16：30

場所：玉島の森 会議室

出席：別紙

議事録作成：天野産業(株) 古江

### 議事

#### 1. 活動紹介

##### 1-1 くらしでミーティングの取り組みについて（中国地方整備局 企画部 小倉さま）

技術系職員 60名／中国地方整備局職員約1700名 で構成

60名の内、30名は20代 →これから出産・育児の後も働き続けられる組織づくりを目指している。（女性が活躍できる社会へ向けての取組み）

活動としては、業界や学生の方との意見交換会、小学校での防災出前講座を行なっている。

##### 1-2 なでしこBCの取り組みについて（なでしこBC企業 榊井上組 櫻井さま）

###### 【なでしこBC連携グループ発足の背景】

地方の小規模建設業者では、大規模災害が発生した際に作業員や建設重機の確保が困難であることが危惧されている。災害対応力を高めるための志や規模を同じくする業者同士での取組みを進めることとした。平成26年12月に徳島県西部の(株)榊井上組と(株)榊福井組の連携からスタート。

###### 【目的】

連携を行なう上で、社員を含めた企業間の相互理解が重要であると考え、「連携の相手を知る」ことから取組みを始めることとした。

###### 【取組み状況】

平成26年12月 なでしこパトロール (株)榊井上組、(株)榊福井組 2社でスタート

平成27年2月 なでしこパトロール (株)榊井上組、(株)榊福井組

平成27年6月 なでしこパトロール (株)大竹組が加わり 3社に

平成27年8月 初動訓練 (株)榊井上組、(株)榊福井組

平成27年9月 なでしこパトロール、緊急時連絡訓練・支援訓練、炊き出し訓練  
(株)榊井上組、(株)榊福井組、(株)大竹組

平成27年12月 なでしこパトロール (株)榊亀井組、(株)榊奥野組が加わり 5社に

平成28年6月 なでしこパトロール、緊急時連絡訓練、炊き出し訓練

※「安全」「品質」「連携BCP」「女性雇用・環境」の4分科会で意見交換会実施  
(株)榊北岡組、(株)西土木、(株)天野産業、  
(株)榊丸山組（和歌山県）、が加わり 9社に

平成28年11月 なでしこパトロール、緊急時連絡訓練、i-Construction 見学会  
(株)榊吉岡組が加わり 10社に

## 【BC 連携の活動を通じて】

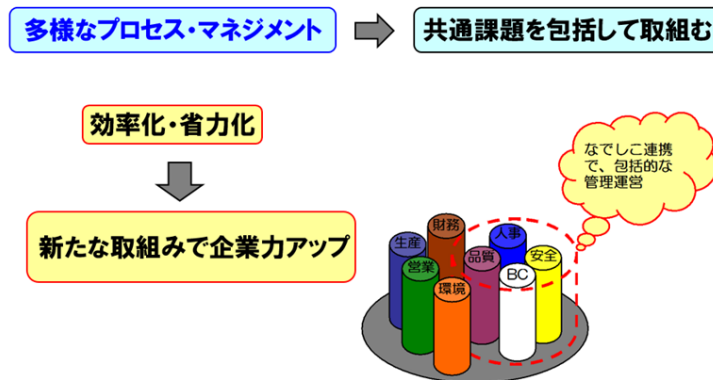
連携して取り組んでいくことにより、

- ・ BC の合同訓練を行なうことにより、各会社の事業継続強化
- ・ 連携して様々な課題に対応することにより実効性の向上
- ・ なでしこパトロール実施による工事現場の安全・作業環境の改善
- ・ なでしこパトロールによる建設業への女性雇用の増加
- ・ 現場見学会による施工能力向上

と災害対応だけでなく、企業を存続するための包括したマネジメントへと変化している。

BC 連携の輪を拡大していくと共に、勉強会を通じて企業間の共通の問題に取り組み、各企業の企業力向上を進めていく。

### BC連携の取り組み内容



(天野産業(株) 古江)

熊本地震後に従業員がボランティアへ行ったが、建設業者としてではなく他のボランティアと同様の活動を行った。繋がりがなければ、能力も発揮できないことが分かり、以前から声を掛けて頂いていた徳島県の企業様と連携をすることとした。

### 1-3 地域建設業BCPの活動について (天野産業(株) 古江)

防災力向上は必要だが、中小事業者は出来ることの限界がある。そこで行き着いたのが、この『なでしこ BC 連携』である。(人の限界、物の調達の限界) →地域外の企業との連携で、災害が発生した際にも出来ることが広がる。

また、平時のお互いの活動を知ることで、「相互のレベルアップや修正」を行なえる。「なでしこ BC 連携があって、BCP が成立っている」と感じている。

鳥インフルエンザ発生の際にも、地域の業者は各社人数が限られていたので、対応が厳しいと言っていたが、何とか乗り切ったという感じであった。大規模災害が発生した場合は、厳しい状況になると思う。

### 1-4 質疑応答

## 2. 意見交換会

### 2-1 災害時の女性職員（社員）もしくは女性技術者ならではの係わり方

（女性技術者 榊井上組 安達さま）

井上組に入社して2年。

現在の仕事は、吉野川右岸上流堤防工事の現場代理人。

写真管理や、書類の整理などを行なっている。

#### 【災害時の業務】

吉野川の出張所と現場の人との連絡調整を任されている。

豪雨の際、先輩社員が目の前にいる人を助けられなかったこともある。

災害時の建設業者は大切な役割があると思うが、それぞれのポジションで業務を行なうことが重要と思う。

（中国地方整備局 小倉さま）

現在の仕事のひとつで、局に入省したい土木系技術者を目指している学生と話すことがあるが、「男性と同じように働きたい」という女性も多々いる。但し、災害発生時だけは違う。TEC-FORCEは、意欲のある女性でも入れないので、災害時だけは男女平等ではないと思う。

意欲のある女性が増えてきて、災害時にどういったことだったら出来ると思いますか。

（榊大竹組 橋本さま）

豪雨時に川が氾濫した時に排水ポンプ車を出したが、その時は小さい川だったのでそんなに怖くなかったが、大きな川へ行った時は排水ポンプ車が怖かった（今の会社ではない）。

また、吉野川河川国道事務所に排水ポンプ車を持って行くように言われたが、道路が浸かっている迂回しながら行き、2時間かかって行ったが、「いらない」と断られたこともある。結婚して子供もいたが、家の事をほったらかしで仕事に行った。その後、前の会社を辞めて台風が来た時に、子供から「会社に行かなくていいの？」と言われた時に、寂しい思いをさせていたのかなと思った。

（中国地方整備局 小倉さま）

意欲のある人にチャンスを与えれば、頑張れるのかなと思うが、我々組織がそこまで出来ていないのかもしれない。女性でも最前線に行けるようにしたい。

（天野産業(株) 古江）

女性は家族を守らないといけないので、意欲があっても組織が行かせないのではないかと思う。

(榊井上組 専務執行役員 多田さま)

東日本大震災、我々が行くのは遺体も流れてくる現場。道路啓開、ガレキを除けるだけでなく遺体も出てくる。我々は女性につらい思いをさせたくないの、災害現場に行かせることはない。

安達が自分の役割をポジションという言葉を使って説明したが、ピッチャー9人で野球は勝てない。キャッチャーや外野もいる。人材を適材適所に配置して企業は仕事をしている。やりたいからと言って全員がピッチャーをやるわけにはいかない。

本当の辛いことというのは、雨や寒さではなく、心に辛い傷を負うこと。その時だけではなく、何年も引きずるので女性は行かせることはない。

(天野産業(株) 古江)

災害現場で働くというのが如何に難しいか。災害現場へ行って何をするかということだと思う。最前線で働く人たちの調整役などとして力を発揮することが出来れば、行く価値はある。問題は、『何をするか』である。

## 2-2 女性が（災害）現場で働くことの問題点と課題（女性技術者 榊井上組 西久保さま）

BCPにおける自分の役割は、会社の重要な情報を日々更新している。社内なでしこパトロールの担当にもなっている。

**BC(事業継続)における女性の役割**

- ・連携訓練は「なでしこパトロール」からスタート
- ・本社業務は、女性社員が中心的役割を担っている
- ・工事現場においても頑張る女性社員
- ・安否確認、炊出し訓練は、女性社員が主役



**災害対応業務は、男性社員。本社業務やバックアップ業務は女性社員！**

10

## 2-3 BCP（業務継続計画）推進に対する女性の視点（天野産業(株) 古江）

BCPを推進する上で、同業他社と一緒に取り組んでいくことは有効である。

なでしこパトロールはあくまでもきっかけかもしれないが、これが無ければ各企業との『顔の見える関係づくり』はないと思う。この活動を通じて、各社のBCPがもっと有効になることを願う。

## 3. 参加者より活動における感想

普段、事務所の中での勤務の方が多いので、他社の方とのコミュニケーションを図ったり、この活動を通じていくことで繋がりを大事にしていけたらと思う。

#### 4. まとめ（中国地方整備局 緊急災害対策調整官 後藤さま）

南海トラフの巨大地震が発生すると、四国の被災規模が大きいとすると8万人から22万人の死者が出ると総務省が発表している。被害総額17兆円。そういう中で、連携が重要である。1社のBCP活動で立ち上がることも重要だが、連携があるとより充実したものになる。BCPの中には、「地域の方を助ける」ことが目的にある。そういうことを念頭において、訓練しなければ活動は出来ないなので、訓練を引き続き行なって力をつけて頂きたい。地域の為に出来ることをやって、各人が『人の為に何が出来るか』を考えて行動してもらいたい。

